

西宮つとがわYMCA保育園 11月えんだより

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

年主題聖句 「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」
＜ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節＞

運動会、カーニバルと保育園にとっては行事の多い10月でしたが、園児だけでなく、おうちの方々、地域の方々とも触れ合える貴重な時間を与えられ、交わりの中に実りを感じることができました。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。2園合同とはいえ、小さな保育園の運動会に、しかも足元も悪い中、おうちの方のみならず親族など多くの方が来られ、盛り上がりの中に、子どもたちが愛され育っていることを改めて感じました。

自分の子ども時代はそんな風に運動会や行事に家族がたくさん来たのか全く記憶がないです。私が子どもの頃の育児といえば、「スポック博士の育児書」が一世風靡していた時代で、添い寝はおろか抱っこすら、子どもの自立を妨げるとか、母乳は早くやめたほうがいいのか、子育てに科学を用いる中で子どもとの関わり方を大きく変える影響を与えた時代でした。その後愛着障害や思春期以降の人格への影響から、その子育て論は見直され、最新の科学では子どもが育っていく中で「アタッチメント」の重要性に注視される時代となりました。

子どもが抱っこをせがむのは単に不安や恐れ的情動からでなく、その安定した場を拠点に情動の安定のみならず自由な探索を可能とする「自律への糸口」としての働きがあると考えられています。安心の中からの保護的存在との信頼感はいずれ他者との信頼感を構築していくことにつながります。こうした自己受容への安心からくる主観形成をアリソン・ゴブニックという学者は「愛の理論」と呼んでいます。アタッチメント＝つながりからの主体的感情の形成は、なにより保護されないと生きていけない乳幼児期に大きく育っていく部分であり、これこそまさに「目に見えない部分の育ち」なのかもしれません。今月の聖書の箇所では、イエス・キリストが弟子たちに「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」と語っています。つながりの中で愛が育つ、そのことを保育を通じて私たちは日々感じ過ごしています。

11月の聖句 「わたしはまことのぶどうの木」

＜ヨハネ 15章1節＞

11月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 深まりゆく秋の自然に気づく。 * 保育者や友だちと秋の実りを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> * 考えを出し合ったり相談したりして遊びを深める。 * 秋の実りを感謝し、収穫を喜ぶ。 * 社会や世界の出来事に関心を持ち、自分にできることを考える。
讃美歌	しゅイエスはまことのぶどうの木	